

1 イントロダクション

1-1 ③ 統合的視点に向けた取り組み

プラネタリー・バウンダリーで示されている社会的な環境課題の間には、トレード・オフやシナジーが存在し、複雑に絡み合っています。当社グループは、これらの課題の解決に適切に対応するためには、事業活動におけるリスクや機会と社会的価値の両方を定量的、定性的に評価する必要があると考えています。

本レポートも、この考えに従い、評価手法の高度化や開示内容の拡充などに取り組んでいくことで、統合的視点での取り組みとサステナビリティ関連の情報開示の拡充を図っていきます。

当社グループにおける自然資本に関連した主なリスクと機会

分類	リスクまたは機会の内容	気候変動	自然関連	資源循環
リスク	森林資源の調達困難化・生産性低下	●	●	※
	炭素価格によるコスト上昇(調達・操業)	●		※
	激甚災害・異常気象による事業影響(操業・物流)	●	●	※
	物流コスト上昇・物流網の弱体化	●		※
	脱炭素・環境配慮対応の遅れによる競争力低下	●		※
	水リスクによる操業影響(取水制限・水道料金・水質/供給不安定)		●	※
機会	国産材・古紙・持続可能木質資源の活用・需要拡大	●	●	●
	製品の安定供給需要の増加	●	●	※
	木質資源活用製品(CNF、紙包装、リグニン製品、バイオエタノールなど)の市場拡大	●		※
	森林由来のクレジット創出・販売・カーボンリサイクル進展による新機会	●	●	※
	節水・循環利用・水使用原単位改善・水源涵養		●	※

※ 次年度以降に分析・評価を進める

1-1 ④ レポート全体の構成

イントロダクション

ガバナンス

自然資本戦略

おわりに

付録

気候変動(TCFD)

自然関連(TNFD)

資源循環(GCP)

TCFD/TNFD/GCP
フレームワークに沿った開示戦略
(各論)

分析

指標と目標

リスクと機会
取り組みTCFD: Task Force on Climate-related Financial Disclosures
TNFD: The Taskforce on Nature-related Financial Disclosures
GCP: Global Circularity Protocol for Business

- 日本製紙グループ環境目標2030の進捗・取り組み状況
- マテリアルバランス(インプット・アウトプットデータ)
- TNFD提言v1.0に基づくグローバル中核開示指標